

農作物病害虫発生現況情報（6月）りんご編

1 モニリア病

(1) 6月前半の巡回調査では、発生が確認されなかった（平成1.0%）（図1）。

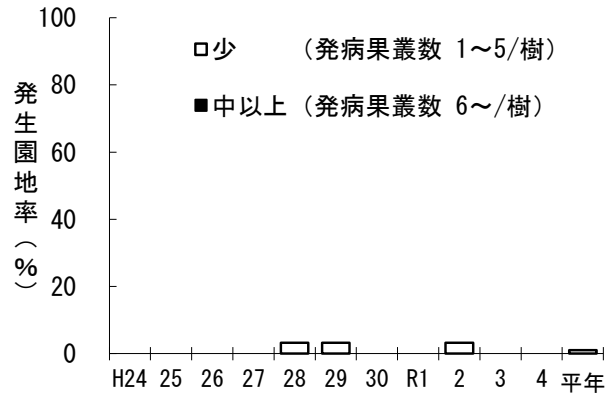


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移（6月前半、実ぐされ及び株ぐされ）

2 斑点落葉病

(1) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）における初発は例年よりやや遅い6月第3半旬となり、発病葉率は6月第6半旬まで平成より低く推移した（図2）。

(2) 6月後半の巡回調査では、「ふじ」の発生園地率は6.5%（平成18.1%）で平成よりやや低かった（図3）。

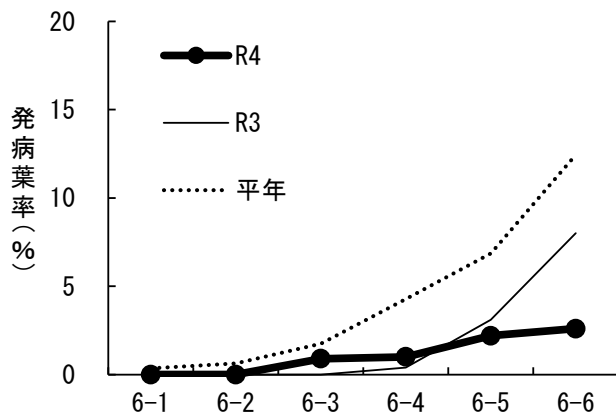


図2 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移（半旬別、スターキングデリシャス、新梢葉、無防除）

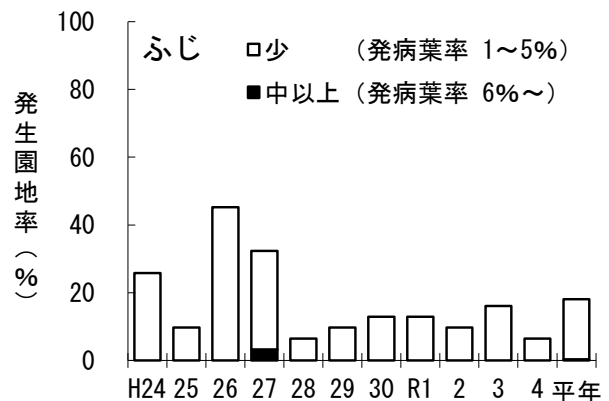


図3 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（6月後半、新梢葉、ふじ）

3 黒星病

(1) 6月後半の巡回調査では、新梢葉の発生園地率は9.7%（平成7.1%）で平成よりやや高かったが、発生程度の高い園地は確認されなかった（平成1.3%）（図4）。

(2) 地域別では、県中部で発生が確認された（図5）。

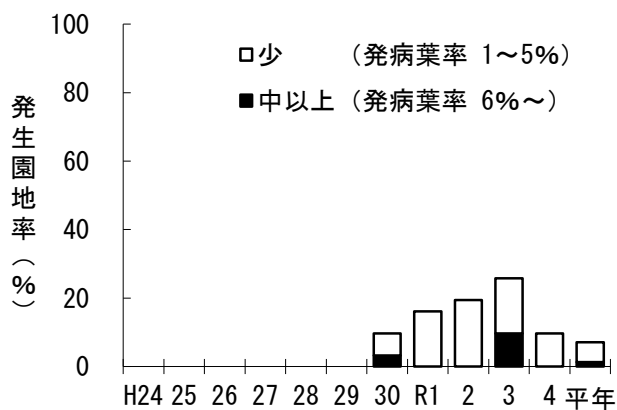


図4 黒星病の年次別発生園地率
(6月後半、新梢葉)

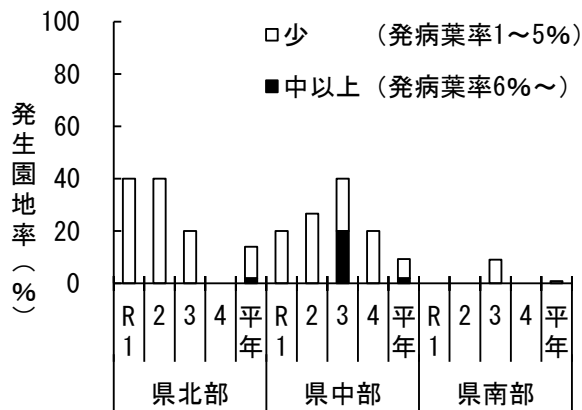


図5 黒星病の地域別発生園地率
(6月後半、新梢葉)

4 赤星病

(1) 6月後半の巡回調査では発生は確認されなかった (平年4.2%) (図6)。

5 うどんこ病

(1) 6月後半の巡回調査では新梢葉の発生園地率は3.2% (平年1.3%) で平年並であった (図7)。

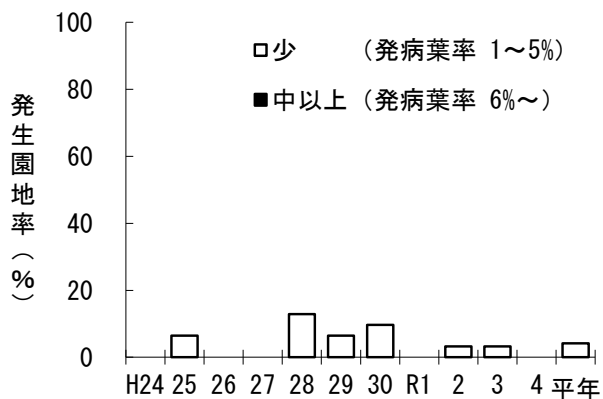


図6 赤星病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

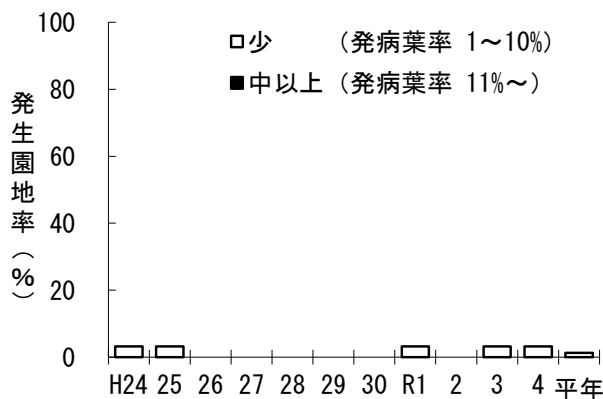


図7 うどんこ病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

6 褐斑病

(1) 基準圃場 (北上市成田、ふじ、無防除) における果叢葉での初発は6月第1半旬であり、例年より早かった。6月第6半旬時点の新梢葉での発病葉率は5.7% (平年0.9%) で平年より高かった (図8)。

(2) 6月後半の巡回調査での発生は確認されなかった (平年2.6%) (図9)。

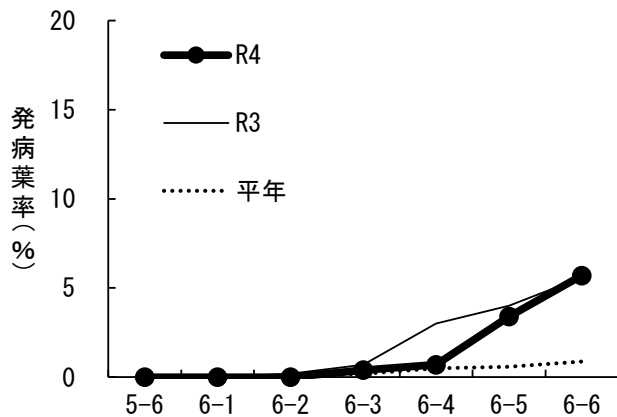


図8 基準圃場における褐斑病の発病葉率の時期別推移 (半旬別、ふじ、新梢葉、無防除)

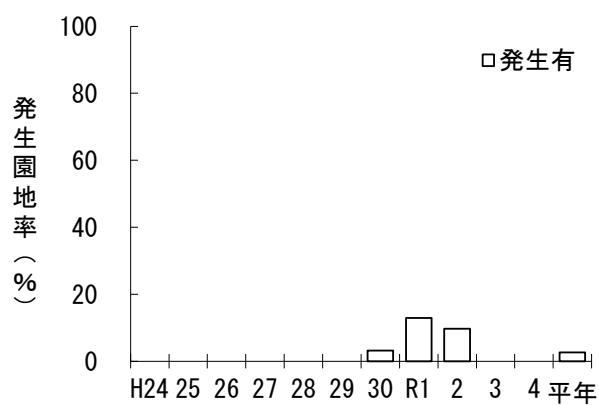


図9 褐斑病の発生園地率の年次推移 (6月後半)

7 キンモンホソガ

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）における第1世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は、6月第1半旬から確認された（図10）。
- (2) 第1世代幼虫の発生園地率は29.0%（平年10.6%）で平年より高く、発生程度中以上の園地は6.5%（平年3.2%）で平年よりやや高かった（図11）。

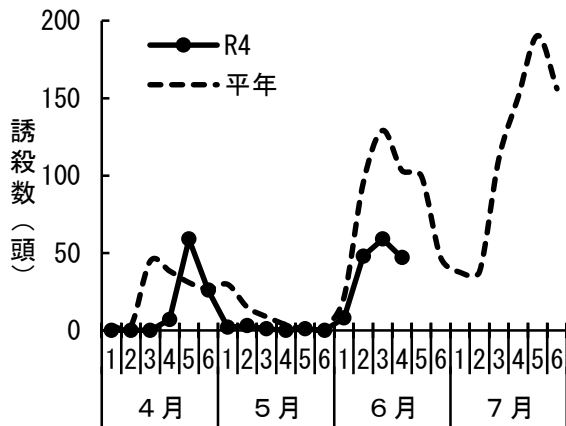


図10 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況 (北上市成田、無防除)

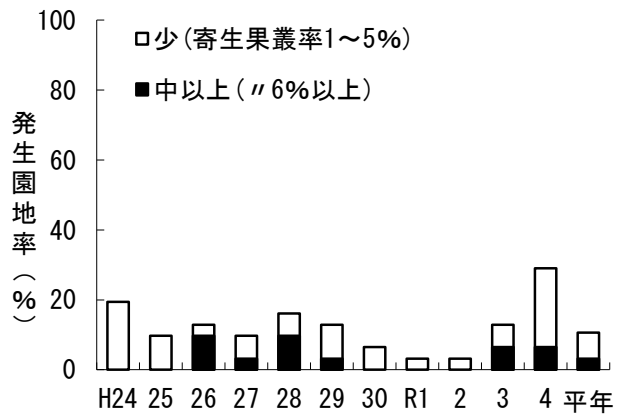


図11 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (6月前半、果叢葉)

8 リンゴハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生園地率は35.5%（平年21.3%）、発生程度中以上の園地は25.8%（平年11.0%）で、ともに平年より高かった（図12）。
- (2) 時期別では、越冬卵の発生園地率は平年より高かったが、その後、平年並となり、6月後半では平年よりやや高くなった（図13）。
- (3) 6月後半の地域別発生状況は、いずれの地域でも、発生程度中以上の園地があった（図14）。

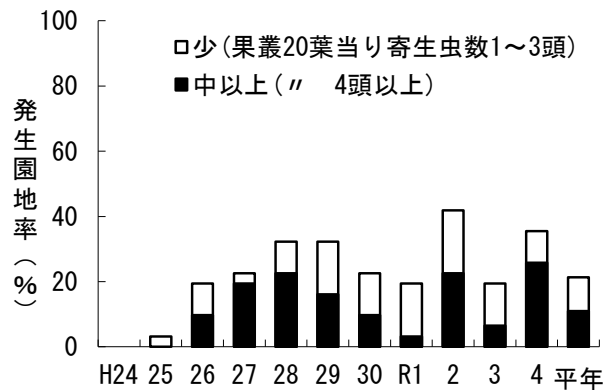


図12 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

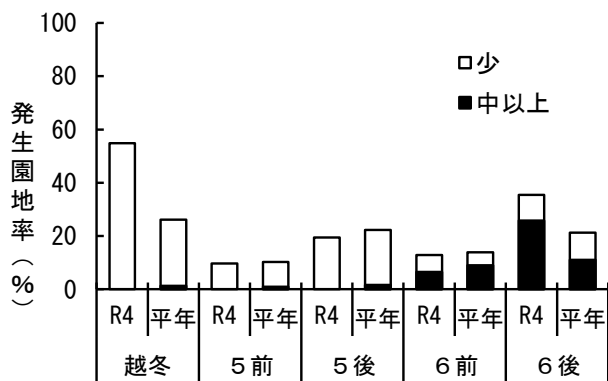


図13 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

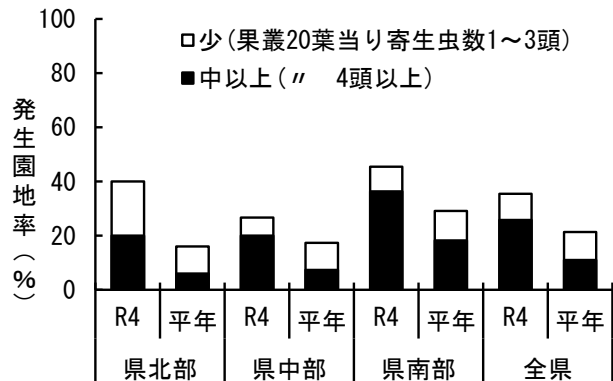


図14 リンゴハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

9 ナミハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生園地率は38.7%（平年32.6%）で、平年並だった（図15）。
- (2) 時期別では、5月後半以降、平年よりやや低いか平年並に推移している（図16）。
- (3) 6月後半の地域別発生状況は、いずれの地域でも、発生程度中以上の園地があった（図17）。

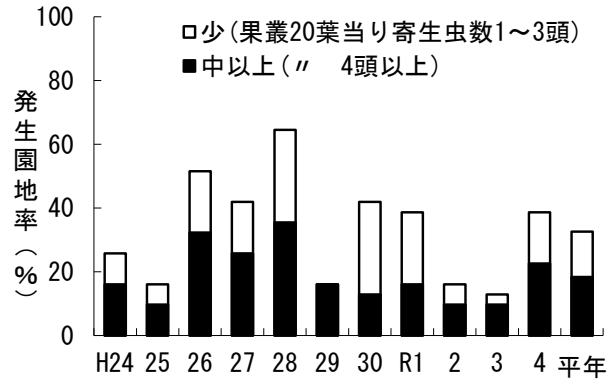


図15 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

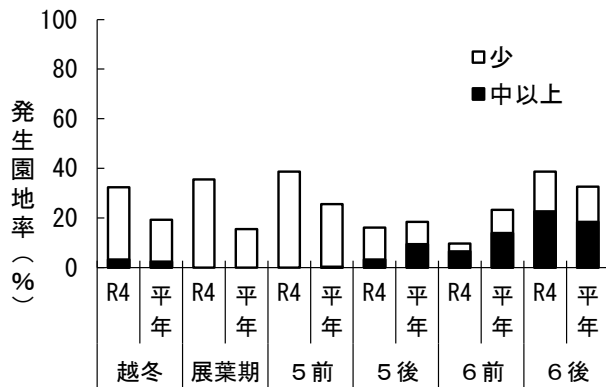


図16 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

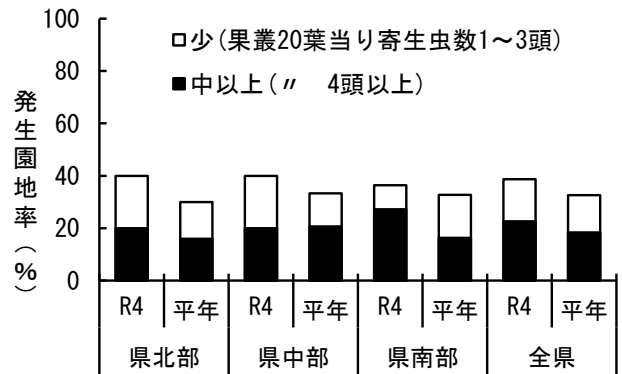


図17 ナミハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

10 アブラムシ類

- (1) 6月前半の巡回調査における発生園地率は96.8%（平年70.3%）で平年より高く、6月後半は48.4%（平年39.7%）で平年よりやや高かった（図18）。
- (2) 発生が見られた種は、ユキヤナギアブラムシ、リンゴミドリアブラムシであった。

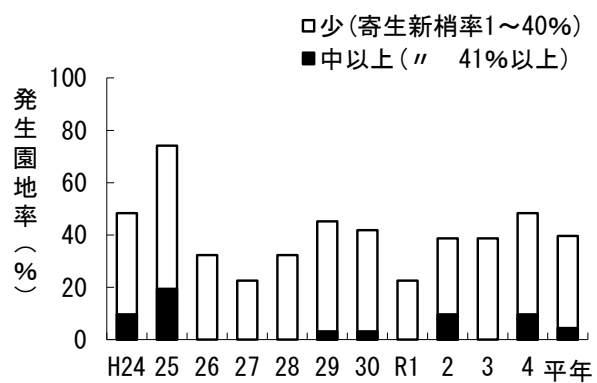
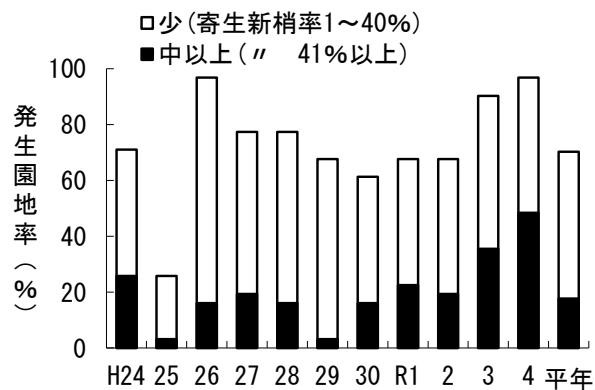


図18 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (左: 6月前半、右: 6月後半)

11 モモチョッキリゾウムシ

- (1) 6月前半の巡回調査では、被害果叢は確認されなかった（図19）。

12 ギンモンハモグリガ

- (1) 6月後半の巡回調査では、被害葉は確認されなかった（図20）。

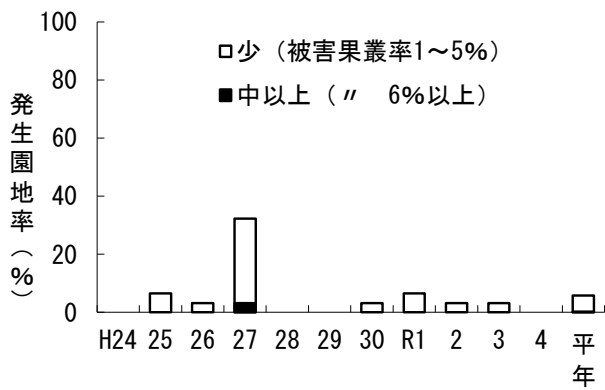


図19 モモチョッキリゾウムシの発生園地率の年次推移（6月前半、被害果）

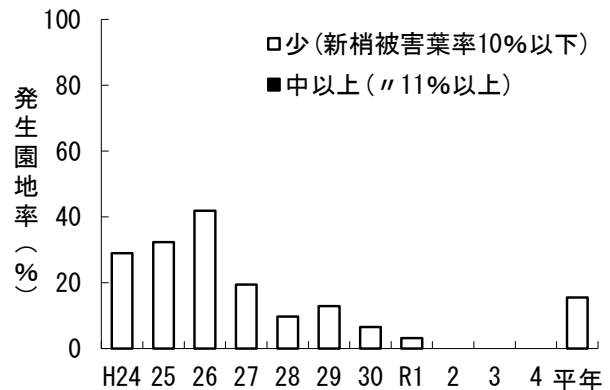


図20 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移（6月後半、被害葉）

13 果樹カメムシ類

- (1) 巡回調査での6月前半の被害果の発生園地率は9.7%（平年8.1%）で平年並、6月後半は32.3%（平年15.2%）で平年より高かった（図21）。
 - (2) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、6月第4半旬時点で、基準圃場では1半旬あたり5頭以上の誘殺が累計1回確認され、現地園地の盛岡市川目では同2回確認され、現地園地の北上市更木では、1半旬あたり誘殺数は5頭未満であった（図22、23）。
- ※5月下旬～6月下旬において、半旬あたり5頭以上誘殺される場合、多発年もしくは激発年となる可能性がある（令和元年度防除技術情報）

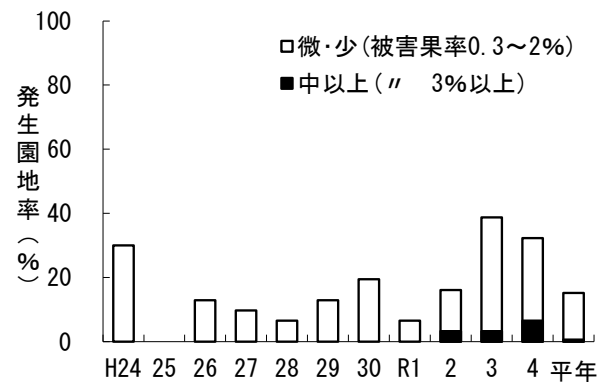
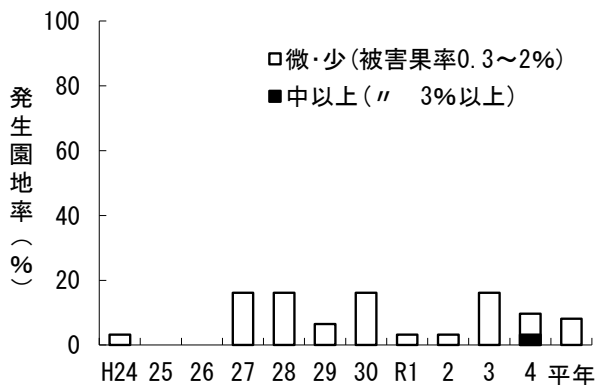


図21 果樹カメムシ類の発生園地率の年次推移（ふじ、被害果、左：6月前半、右：6月後半）

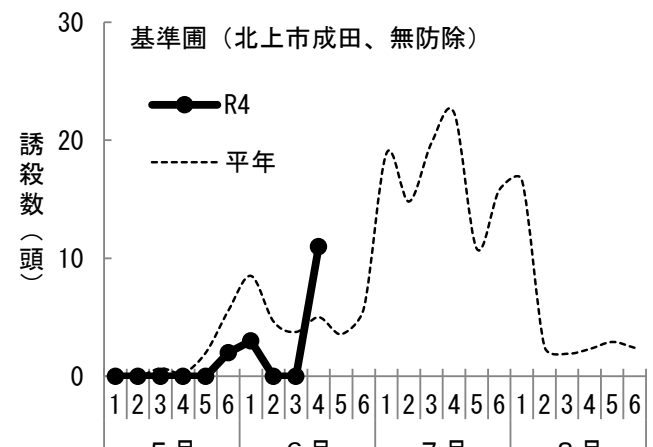
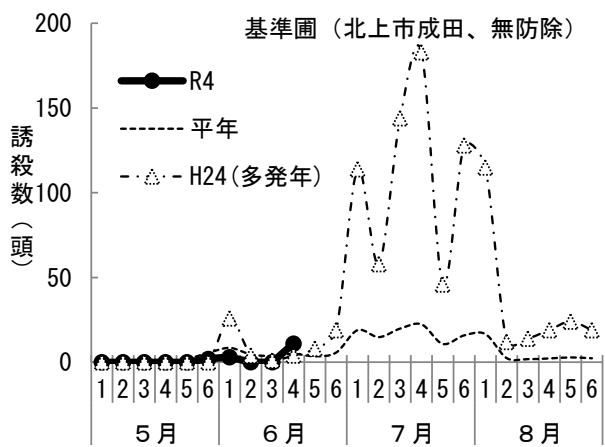


図22 基準圃場におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況（北上市成田、無防除）

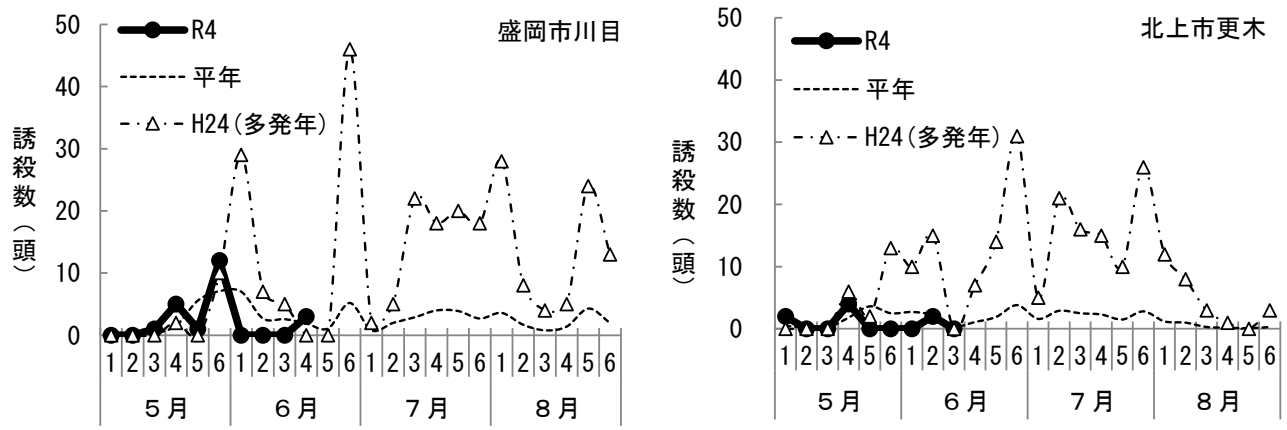


図 23 現地におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況
(左：盛岡市川目、右：北上市更木)